

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290300033		
法人名	有限会社富南		
事業所名	グループホームまみや		
所在地	静岡県田方郡函南町間宮891番地の1		
自己評価作成日	令和元年11月10日	評価結果市町村受理日	令和2年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2290300033-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2290300033-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年12月7日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋でゆとりのあるユニットがひとつだけのグループホームです。共有スペースに洗面・トイレ・お風呂があります。外にはテラスがあり、そこに座りながら日光浴し、近くには公園があり、子供の遊び声が聞こえます。心とゆとりとした風が吹き、ゆとりとした時間が通り過ぎます。函南町間宮の近隣の人たちのご支援とさまざまな支援に支えられ、「その人と共にある」を常に想い、ご家族をはじめ、地域の人々と連携をとりながら職員一同、地域福祉のために努力しております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設は平成23年、管理者は着任して2年8ヶ月となる事業所です。53歳～74歳まで平均年齢60歳という職員層ですが、当法人での勤務年数は7年以上という人が8割を占めていて、何度も同じ行為を繰り返す利用者にも、ゆったりと、変わらないペースで介助するベテラン職員の様子を理念「その人らしさの日々と、ゆとりとした空間、ゆとりとした時間」の実践が感じられます。また函南町内4施設が集まるグループホーム連絡会の会場は従来持ち回りでしたが、本年度から地域包括支援センターから快諾を得て会場を借りることができるようになり、人手不足をはじめ各事業所の課題を持ち寄る機会は、新たな場を得て更に充実しています。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の人たちと共にゆっくりゆったりと第三の人生を共に歩む。」そんな理念に向けて、ゆったりとした空間、ゆっくりとした時間を公平に・平等に利用者の方に提供できるように日々取り組んでいます。	法人内の異動で職員半数が入れ替わっていますが、朝の申し送りで理念を読み上げて日々意識に問いかけています。また理念に基づいて個人目標をたて、年2回の面談で振り返ってまいります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の組内に所属し行事に参加したり、町内清掃を周囲の方々と一緒に行ったりしています。又グループ全体で行う祭りには、地域の方々にお声掛けするなどし、交流を深めています。	地域の側溝清掃、公園の消毒まきへの参加を果たし、防災訓練では公園での炊き出しにも出向き、身近な物を再利用した担架作りも見学しています。傾聴、バルーンアート、茶道等のボランティアの慰問もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議等の、地域の方との交流の場において認知症ケアの勉強会等を行い、近隣町内の情報を得、私たちの専門性を活かした分野で相談を受ける等しながらお役立ちできる様心掛けて活動しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現状、研修報告、活動報告等を報告させていただきながら、参加者の方々より意見を頂戴し、サービスの向上に活かしています。	運営推進会議には福祉課職員、区長、副区長、民生委員、家族、ボランティアなどがメンバーとなっており、話題性に富んだ内容を抽出してテーマとして取り上げ、またお茶会を模して開催したこともあります。	地域代表にとって運営推進会議が負担となっている現状が少しでも是正されることを期待します(他事業所との合同開催も一考)。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村職員の方に参加していただいたり、定期的に行われる、函南町グループホーム連絡会に参加し、様々な情報を共有し、町の見解を伺ったりしながら、交流をはかっています。	3ヶ月毎に開催されているグループホーム連絡会では、町内4施設の皆さんと人手不足や各事業所の課題を持ち寄り、意見交換おこなうとともに、集団指導にも必ず参加して、連携に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に付いて外部の研修に参加した職員が主に勉強会を行い、職員全員が周知出来るように取り組んでいます。日中は、利用者様の活動を見守り、施錠をしない、身体拘束をしない、利用者様を尊厳したケアが出来る様、取り組んでいます。	身体拘束廃止フォーラムへ職員が参加しています。すぐさま内部研修を実施するとともに、運営推進会議では職員より研修報告をおこない、「身体拘束廃止への取り組み、大変ですね」との言葉を出席のメンバーからももらえています。	身体拘束適正化にかかる取組みが整備されることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての勉強会を開き理解を深めている。職員会議でも議題にあげ、ホームでの職員の言動や行動が虐待になっていないか見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を活用されている入居者様がいらっしゃいますので、管理者・職員は制度についての知識を持っています。必要に応じ、関係者と報告、連絡、相談をおこなっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約時には、手続き書類に沿って利用者や家族の疑問点などに十分な説明を行い、理解、納得して頂いたうえで契約を結んでいる。契約の締結や解約の際にも十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見相を玄関入り口に設置。面会時など言葉掛けし、話す機会を持ち、日頃から、意見、要望の声や、管理者や、職員に直接伝えやすい雰囲気を作っています。得られた意見、要望が反映されるように努めています	「ご家族へ」として毎月手書きで様子を伝え、写真を添えて家族へ送っており、運営推進会議では、「生け花に勤しんでいる様子が見られ、家宅ではできなかったことをさせてもらえて～」と感謝の言葉もあがっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、ユニット会議や、普段の現場において、職員の意見や提案を聞く機会を設けています。代表者は会議において管理者との意見交換を行い、意見や提案を運営に生かしている。	53歳～74歳、平均年齢60歳という職員層で、法人でも勤務年数は7年以上という人が8割を占めており、個人面談や毎月の職員会議ほか、管理者も現場に入っているため、都度意見が聞かれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自職員職務における達成度について評価を行ったり、習得や研修等における個々の向上心を把握し、処遇につなげている。又必要に応じ、職員面接を行い、やり甲斐を持って働けるよう、努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員の経験や習熟度に合わせて、内外の研修に参加している。研修後は学んできた内容をもとに勉強会を開催し、学んだ内容を共有し職員のスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターなどの研修参加や函南の4グループホームのホーム長が集い、情報を共有するなどサービスの質の向上の取り組みをしている。また自施設への見学も積極的に受け入れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入時、職員が本人と関わる機会を多く持ち生活して行く上での不安や困りごと等に耳を傾け、日々の生活の中で本人の思いを汲み取る努力をしながら安心した生活が継続できるような関係づくりに努めています。		
16		サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学した際、あるいは申し込みや契約時に、家族が困っている事や不安なこと、要望等を聞き、これまでの利用者との生活の中での体験談や思いに耳を傾け、家族との信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームを見学した際、あるいは申し込みや契約時に、家族が困っている事や不安なこと、要望等を聞き、これまでの利用者との生活の中での体験談や思いに耳を傾け、家族との信頼関係の構築に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、職員が頼るような場面もあり。出来る事はやって頂き、出来ないことをサポートしながら、共に生活を支え合っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や電話、手紙などで本人の近況を伝え、現在の状況を共有し行事や外出、受信日常生活における支援のあり方など職員だけで考えていくのではなく、家族も一緒になって考えていく関係を築いています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が在宅で生活していたときの近所の昔馴染みの友達等が気軽にホームに遊びに来られるように、また変わりなく関係が築けていかれるように支援しています。	面会時間は決まってはいるも、前もって連絡をくだされば臨機に対応し、職員は「ありがとうございます、またおいで下さい」の言葉を必ず添えています。孫が会いに来たり、面会時に食事介助をおこなう家族もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が調整役となり、その時の状況、個々の状態、入居者様同士の、相性等考え、支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去先での暮らしが、安心して過ごせるようなサービス・情報は、積極的に、提示相談に乗るように努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話・コミュニケーションの中から、なじみの暮らし方を知ったり、ご家族様等から、生活歴を伺ったり、以前のサービス利用があれば、サマリー等で、情報の把握に努めています。	入浴や就寝介助では昔の話となったり、本音がこぼれたり、一対一の時間帯は本人の気持ちが表出される貴重な場と捉えています。年齢の高い職員のため、共通の話題があり、自然に傾聴や同調がみられます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し送りや、日々の介護計画記録等を確認する事で、その人にあった過ごし方が出来るように話し合っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々生活の中で個々に新たな課題や、ケア内容の見直しなどが必要になった時は、カンファレンス会議等を開催し本人、家族、必要な関係者が集まり意見を出し合い現状に即した介護計画に変更している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護記録や申し送りノートに、いつもと違う状況や、新たな気づきを記録し、変更、申し送り事項は、文章、口頭で職員間で共有し、日々のケアや、介護計画の見直しに活かしています。	介護計画はシートを見つつ、職員全員で「変更すること」「加えること」を話し、介護支援専門員が書面化しています。またサービス内容の項目に番号を付し、経過記録には番号のみで連動させています。	経過記録への記載方法が徹底されていないようですので是正を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	病院受診の付き添い、役所等の申請手続きの代行、本人の身の回りのものなどの購入や本人宛に届いた封書を家族に都度郵送するなど、その時々に応じた多様なニーズに対応し支援しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の付き添い、役所等の申請手続きの代行、本人の身の回りのものなどの購入や本人宛に届いた封書を家族に都度郵送するなど、その時々に応じた多様なニーズに対応し支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今迄住んでいた近隣の方の訪問・獅子舞の来訪・実習生の受け入れ等、積極的に行い、利用者様が馴染みの暮らしを楽しむ事が出来るように支援させていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族等には、入居時に医療を受ける際の希望を聞き、かかりつけ医に通院して頂くか、ホームと連携している訪問医師に移行するかは、ご本人と家族等の希望に沿って決めています。	協力医に7名(全員:現在2名空室)が変更しています。月2回の訪問診療は看護師が管理者が立ち会い、『受診記録』へ結果を残しています。家族へは緊急なものでなければ面会時や毎月の手紙で報告しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者の日常生活の中で捉えた情報や築きを事業所の看護師との連携により適切な健康管理に繋げています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会に行き、実際に状態を把握させていただきながら、主治医や看護師MSWに情報提供をお願いし、自施設の対応、体制を説明し、相談しながら、早期退院に繋がる様に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホーム入居時には、重度化した場合の有り方についての指針を説明させて頂いています。終末期には往診や、訪問看護を利用し、家族様等とご本人様の相談を密にし変化に応じて話し合いを重ねる事で、家族様の意向に沿えるよう支援させて頂いています。	契約時には重度化に係る指針に沿って説明をおこない、看取り加算算定の手続きを経て、この2年で5名を見送っています。24時間体制で連絡対応が可能な看護師のバックアップのもと、夜勤者にはいざという時には管理者も駆けつけると約束しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、ご利用者様の急変時や事故発生時に、職員が応急手当や初期対応が出来る様、実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上災害時の訓練を実施しています。地域の防災訓練にも参加し、地域との協力体制も築いています。また、緊急連絡網を作成し、通信・連絡方法の職員訓練も実施しています。	5月に実施した訓練では、漏電を想定しています。炊き出しではカレーを作り、排煙装置の使い方や利用者の避難誘導を体験、最悪の状態を想定し命を守ることを最優先し窓から搬出する訓練も試行しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の人格を尊重し、プライドやプライバシーを傷つけない様、温かい言葉掛けをし、受容の心で支援させて戴いています。	少しでも塊があると吐き出す利用者の口元を丁寧に拭い、幾度も幾度も変わらないペースで介助するベテラン職員の様子には、理念の「その人らしさの日々と、ゆっくりした空間、ゆっくりとした時間」の実践が滲みます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけではなく、身振り手振りなどの動作などからご本人の思いを受け止め、一人一人の表したい事を大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操・レクリエーション等も取り入れながら、余暇の時間は、自由に過ごして頂けるよう、支援しています。入床等ご本人の希望やペースに合わせた過ごし方を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の美容院を利用し2か月に一度ホームに来ていただき、希望者はカットして頂いています。着替え等も可能な限りご本人に選んでいただくなど基本的な事を大切にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食に付いては週7日ゼロックスメニューを利用しています。又行事を作り別メニューの献立を提供したり、おやつと一緒に作ったりしています。	業者から湯煎のものと、それとは別に新鮮な野菜も届き、バランスを考えて職員が調理しています。またレクリエーションでお菓子作りを3ヶ月に一度、また芋煮会やビアガーデン(ノンアル)といったイベント食もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事、水分摂取量を、毎食後等に記録しています。水分補給の少ない方には、好みの飲み物を提供しています。一人一人の状態に合わせて、常食、刻み、ペースト食等の対応をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの言葉掛けを毎食後行い、出来る能力に沿った口腔ケアを行っています。眠前には義歯を付けおきしていただくようになっています。必要時には、ご家族と相談し、訪問歯科を利用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表に記入しながら、一人一人の排泄パターンを把握し、時間的な言葉掛け、表情、言動行動に注意を払い、誘導するなど自立に向けた支援を行っています。	排泄表をつけ、日中はできるだけトイレでの排泄とし、夜間の尿量が多い人には吸収量の多いパッドを使って安眠優先としています。夜間トイレまでの歩行がおぼつかない場合はポータブルトイレを使っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便の周期を把握し、朝食前には牛乳を、飲んでいただき水分補給には常に注意をしています。体操への参加も進めています。必要があれば主治医に相談し、排便コントロールを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週最低2回の入浴をして載っています。ご本人の状態に合わせ、日や時間を差し替える等の対応をしています。状況によってはシャワー浴等の対応を行っています。	入浴は週2回を目安とし、湯の張り替えはしていません。シャワー浴は現在1名、座ったまま全身シャワーが浴びられる機器で寒さを感じず洗身でき、また脱衣スペースもヒートショック対策が施されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の体調や、習慣に合わせて、必要に応じて昼寝ができる環境を、作っています。気持ちよく眠って頂けるように、リネン類の洗濯、布団干しは、定期的に行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時は、服薬管理表を使い、口頭と書面で申し送りを行い、目的・副作用・注意点等の確認・共有をしている。服薬情報も個別にファイルしてあり確認できます。医師、薬剤師、看護師との連携を密にとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の状態・生活歴を活かして、洗濯干し・洗濯たみ・お絞り巻き等に参加して載っています。お茶・生け花・バルーンアート・日舞等、外からのボランティアもお願いし、気分転換・楽しみ事の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物は希望に応じて行っています。入居者様のADL低下。相性等を考慮し、少人数の(1対1)対応での外出支援も行っています。	平均介護度2.7なもの、歩行困難な人や在宅酸素も2名おり遠出の外出は難しい状況にあります。一日一度は事業所周辺を職員と散歩を予定してはいますが、本人の体調や職員配置の関係から玄関先での外気浴がメインとなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居の際にご家族等にトラブルがあり得る事を説明し、預り金として対応させていただき。買い物や外出の際に使えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月毎にご家族等へ行事予定や近況報告を利用者様の写真を載せて送付しています。電話をかけたい方は自由にできるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の立場になって、空調、採光、家具、音楽等の居心地のよい空間作りに心掛けている。季節ごとに飾りつけを行い移り変わる四季を感じて頂いている。常に空調に配慮し空気清浄器や時期に合わせて加湿器等を使用しています。	制作ができる利用者はいないため作品掲示はなく、職員がツリー、リース、タペストリーとクリスマス一色の共用空間に仕上げています。床清掃は朝モップ掛けをおこない、利用者も一緒に手すりやドアノブを拭いています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間であるリビングにはソファを並べて、気ままに思い思いに過ごせるように配慮しています。利用者様同士の相性やその日の体調を考えて座る席をそれとなく気を付けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際出来るだけご本人の使い慣れたものを持参して下さるようお話し、住み慣れた空間で。穏やかに、心地よく過ごせるように、支援しています。	持ち込みは少なく、総じて整然としていますが、家族写真が飾られていたり、位牌を持ち込んでいる人もいます。ハンガーラックに几帳面に掛けられたジーンズから、日常のその人らしさが覗える居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルの向きや間隔を考えて配置し、転倒しないように工夫し室内の動線上・座る場所・つかまる所に危険物がないか注意を払っている。職員間で情報を共有し、話し合いの場を作り環境整備に努めています。		